

# 専念寺通信

五月号 (NO. 129)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



大きな地震、続く余震、そしてまだまだ解決の糸口の見えない原子力発電所の非常にむずかしい問題、ことしは私たちの国にとってたいへんな試練の年となりそうです。春を迎えたいま、5月の連休を利用しておおぜいの人が東北地方へボランティアとして出かけています。みなさま、おかわりなくお過ごしでいらっしゃいますか？この『通信』も11年めに入りました。

## ☆施餓鬼会法要

今年の施餓鬼会は5月29日の日曜日です。施餓鬼会とは、飢餓に苦しむ餓鬼に飲食（おんじき）を施す法会（ほうえ）です。次のような故事に由来しています。釈迦尊の弟子、阿難がある日の夕暮れ、瞑想していますと、口から炎を出す焰口餓鬼（えんくがき）が現われ、阿難の生命があと3日であると告げます。阿難は釈尊のもとへおもむき、この出来事を報告しますと、釈尊は餓鬼道に堕ちて苦しんでいるすべての焰口餓鬼のための法要を営むよう教えます。この教えに従い、法要をとりおこない、祈念したところ、飢えに苦しむ餓鬼が救われ、阿難もまた、福德寿命を得ることができました。現代では、この施餓鬼会法要は、さらにひろい意味にとらえることができます。餓鬼道に堕ちて苦しんでいるかもしれない私たちの祖先をふくめ、この現代に生きて、飢えに苦しんでいる、また、困難な生にたちむかっている人たちすべてに思いをいたして祈念する法要なのだ。今年、地震とそれにつづく大津波の被害に合い、亡くなった方々、まだ行方のわからないたくさんの方々、肉親をなくされた方、そして住まいをなくし、このあとどのように生きていったらよいのかわからない、とても厳しい状態におかれた人たちが大勢

います。今回の出来事を、自分のこととして思い（もし私の身に起こったら、と想像していらっしゃる方多いと思います）、心を込めて祈念することで、私たち自身もまた救われますようにと願う、施餓鬼会は、そのような法要です。

## ☆原子力発電所事故と節電

原子力発電所が地震と津波にあつて、故障し、その結果放射性物質が空へ、海へ、土壌へと流れだす、という非常に厄介で解決に時間のかかる二次災害が起きています。地球温暖化防止に役にたつエネルギー源なのだとは知らされていたものの、今回の出来事で、この原発は、二酸化炭素ではないもっと危険な物質を発生させるものなのだとしみじみ分かりました。人間の発明には、長所もあり欠点もあるでしょう。けれど火山の多い、地震の多い、海に囲まれた私たちの国に、この国土の広さから考えても、アメリカの次に多い数の原発があるとは、ちょっと考え直すべきなのではないか思われます。原発事故がきっかけで「節電」が提唱されました。事故がなくとも節電は、すればよいのです。特に大都市の照明は、ときに異様に明るすぎます。その他にも、私たちひとりひとりが心がければ、使う電力を減らしていくことができます。節電は、つまりは昭和40年代のように暮らそうと思えば可能です。そして、原発はたくさん必要でしょうか。その数も規模も昭和40年代程度でよいのではないのでしょうか。いえ、むしろその後の40数年を経験して私たちが知ったことを生かせば、原発の持つ危険性も把握でき、発電方法すべてに関して、より安全な、別の判断が、今こそできるのではないのでしょうか。

落ち着いて考え、私たちにできることを丁寧に行なってゆけたらと思います。

平成23年5月1日 大黒

